

プレゼンテーション向上委員会

● 2010/06/08 パワーポイントの勘違い（その1）

プレゼンテーションと言えば、パワーポイント。パワーポイントと言えばプレゼンテーション。と考えている人が多いのではないのでしょうか。

実際、プレゼンテーションを実施する際に、パワーポイントを使っている人は、ほぼ100パーセントに近いとした統計もあります。私自身の体感もそんな感じですよ。

ただ、パワーポイントの有用性を、本当の意味で引き出して活用している人は、極々僅かです。数回のシリーズに分けて、その辺りのパワーポイントの勘違い活用について紹介したいと思います。

まず最初にお伝えしたいのが、準備段階におけるパワーポイントの活用です。

「プレゼンの準備＝パワーポイントの起動」と考えている人、無意識にそうなってしまう人が多いのではないのでしょうか？

何が問題かと申しますと、準備でパワーポイントを使うこと自体は、決して悪いことではありません。

しかし、こう考えている人の多くは、最初から最後までパワーポイントによるスライドの作り込みに終始することで、準備時間の大部分を費やしてしまう傾向が強いことです。

そんな状態の人は、ほぼ間違いなくプレゼンテーション全般が「スライドを用いての説明」ではなく「スライドの説明」になってしまいます。更に厄介なのは、本人がこれに気がつくのは難しいことです。

なぜそうなるのかには、ちゃんと理由があります。続きは次回にお話しますね。